

第24回綾瀬市

社会を明るくする運動作文コンテスト

入賞作品集



令和7年度

綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会

目次

綾瀬市長賞

・ 小学校の部	
言葉の誤ち	篠田 楓
・ 中学校の部	
感謝の気持ちがつなぐ社会	高橋 惺
	春日台中学校三年
	2

綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会委員長賞

・ 小学校の部	
日々を安全に過ごすための約束	飯田 帝盛
やさしい世界	榎野 千彩子
・ 中学校の部	
自分で火を照らす	詫間 ももか
	春日台中学校三年
	6

大和・綾瀬保護司会綾瀬地区会会長賞

・ 小学校の部	
ルールは大切	今井 葵央羽
・ 中学校の部	
「寄り添える人」になる	佐藤 結衣
	春日台中学校二年
	8

綾瀬市更生保護女性会会長賞

・ 小学校の部	
はんざいはよくないな	音琴 湊葵
・ 中学校の部	
つながる	築井 愛斗
	春日台中学校三年
	10

綾南小学校二年

綾瀬市長賞

小学校の部

言葉の誤ち

寺尾小学校 六年 篠田 楓

私は、犯罪をなくす為には、「言葉の重みを知る」事が大事だと思います。

まず、私はなぜ犯罪が起きてしまうのかを考えてみました。四年生の時、クラスでケンカが起こっていたのを思い出しました。悪口や、暴言がクラスにあふれ返っていたのです。相手に言っではいけない言葉を使って、言い合いをしているので、周りの人も嫌な気分になりました。学校にもう行きたくないと思う子も居ました。

一つの言葉は「刃物」これを実感しました。一つの言葉だけで、いじめや犯罪が起きてしまうと 생각합니다。

そして、次に考えたのは、「落ちついた心で、見方を変える」事です。

学級会の話し合いで、意見がたくさんでた時に、Aさんが、「くなので、これがいいと思います。」

と、言った後、Bさんが、「でも、別にこうだから。」

と、少し否定的に言いました。

空気が少し重くなったのを私は感じました。

その時、先生が、「でも、Aさんの意見もあるよね。先生は良い意見だと思ったよ。いろいろな考えの人が居るから、たくさん意見をだそうよ。」

その言葉が、私には響きました。

もう一度、落ちついて考えてみようと思いました。たとえ意見が違って居ても、人によって考え方も違うので、別の視点から見ると、これもいいなど、思う事が大切だと思います。

そして、自分の意見もしっかり相手に伝える事も同時に大切です。

五年生の国語の授業で習った、下村健一さんの、「想像力のスイッチを入れよう」は私の印象に残ったお話です。物事の「見方」や、「事実」か、「印象」かを、学ぶことが出きました。授業を通して、このような事を勉強できるのは良い事だと、私は思います。

私はより多くの人がこの様な学びを知ってもらおう事で、犯罪やトラブル防止につながると 생각합니다。

ある問題に直面した時、「怒り」などの感情に身を委ねるのではなく、落ちついて見方を変えて、解決する事で、少しでも平和な世の中になるのではないかと思います。

綾瀬市長賞

中学校の部

感謝の気持ちがつなぐ社会

春日台中学校 三年 高橋 惺

学校から、「社会を明るくする運動」に関する作文の課題が出た。犯罪や非行について考えるために、自分の今までの人生を振り返って見たところ、それらと自分とがまるで対極にあり、そういうものにいかに触れずに生きてきたかを感じた。何のアイデアも浮かばないような僕に、この作文を書き上げることはできないのではないかとも思ってしまった。しかし社会には、犯罪や非行というものは確かに存在する。殺人、窃盗などのニュースを、毎日のようにテレビで目にする。だから、なぜ僕は、そういうものと全く出会うことのない人生を歩んでこられたのだろうか、と不思議に思った。

どうして犯罪はなくなるのだろうか。犯罪の原因は何だろうか。

身近な「犯罪」といえば、学校で最も起こり得るといえる「いじめ」が思い浮かんだ。僕は、実際に誰かにいじめられたり、いじめに加担したり、いじめの現場を見たりした経験はない。でも実際には、世の中からいじめはなかなかなく

らない。なぜ人は、他人をいじめようと思うのか。そんな問いの答えとして僕がまず考えたのが、「想像力」である。

他人をいじめようとする人は、被害者の感情や立場を想像する力が不十分なのかもしれない。いじめを受けた人はどう思うか、どんな気持ちになるかということ想像しないまま、他人より優位に立とうとするあまり、いじめに発展する。逆に、被害者はこう思うかもしれない、と想像し、思いやることができれば、いじめを含めほとんどの犯罪はなくなると思う。

次に僕が考えたのは、「感情の器の大きさ」である。感情の器が小さいと、些細なことにもいちいち感情的になってしまい、怒りがすぐにあふれ出てしまう。そうすると、何気ないことがきっかけで非行に走ってしまうことがあるのだと思う。たとえば、先日ファストフード店へ行ったときのことだ。ドライブスルーで待っていると、前の車の運転手が車窓から身を乗り出して、窓口のガラスをバンバンと激しく叩いていた。待ち時間が長かったのか、店の対応を急かしていたのだ。これを見て僕はあっけにとられた。一緒に車に乗っていた両親も同様だった。これは、前の車の運転手の感情の器の小ささの表れであろう。確かに、長く待たされれば多少イライラするかもしれないが、僕の家族は、「なんだか今日は長く待つね」程度で済ませるだろう。窓口から商品が出てくればにっこり微笑んで、店員に「ありがとうございます」と言うだろう。

ほんの少しの寛容ささえあれば、あんなことは起こらないと思う。

なぜ人は、非行に走り、そして罪を犯すのか。これについて僕が導き出した答えは「想像力の欠如」と「感情の器の小ささ」であった。これについて、家族で話し合ってみた。

家族で話し合う過程で、僕には気づけなかった「犯罪の原因」がいくつか挙がった。罪を犯す人は、孤独感とともに人生を歩んできた、家族環境が良くなかった、ストレスの捌け口がない、自己肯定感が低いなど、その人自身ではどうにもできなかった過去があるのかもしれない。

また、家族で話し合っている最中、母が言った。

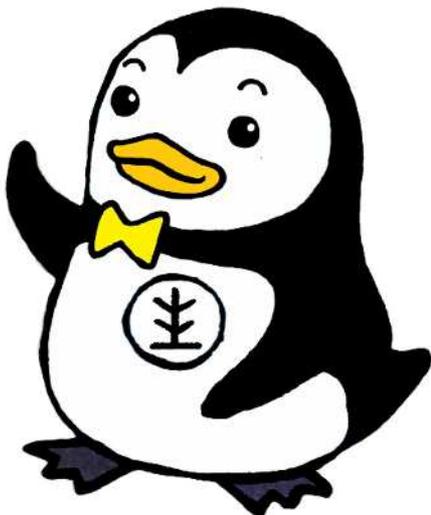
「人が困るようなことをする人は、きっと自分が困っている人なんだよ。」

つまり、罪を犯してしまう多くの人は、身の回りに問題があると考えられる。だから、誰もが「自分は一人じゃない」と思えるような環境、「悩みごとを吐き出してもいいんだ」と感じられる場所、日常の小さなぬくもりの積み重ねが、犯罪や非行を防止することの根幹となるのだと思う。これこそが、「社会を明るくする運動」であるはずだ。

僕の近くには、信頼のおける両親、友達、先生方がいる。今の僕に孤独感はないし、ストレスも無理なく吐き出せる環境が整っている。だが、この状況は当たり前ではなく、むしろもっと感謝すべきなのかもしれない。

この作文を通して、犯罪や非行について考えることで、自

分を取り巻く環境への感謝の気持ちが必要だと気づくことができた。犯罪や非行というものについて深く考える前は、これらは自分とはまったくの無縁であり、考えることに大きな意味はないのではないかと思っていた。ところが、一度立ち止まって考えてみると、犯罪を引き起こすかもしれない「孤独感」や「環境の変化」は、自分の身の回りにも起こり得ると思い直した。大切な家族や友人が突然病に倒れたり、事故に遭ったりすることだって考えられる。僕にもできる「社会を明るくする運動」として、まずは当たり前だと思う「身の回りの環境を大切にすること、些細なことにも感謝の気持ちを伝えること」を、僕は忘れない。



綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会委員長賞

小学校の部

日々を安全に過ごすための約束

寺尾小学校 六年 飯田 帝盛

皆さんは、門限を守れていますか。

『門限』

それは、保護者と交わす大切な約束です。

約束事で決められた時間までに帰る、それがどれだけ危険なものから自分達の身を守るか想像してみてください。

門限なんて必要ない、門限なんて守らなくても何も問題がない、そんな少しの見栄や気の緩みで犯罪に巻き込まれる事もあるそうです。

昼中に地域の方々が僕ら子供達を気にかけてくださっているから、僕達は安全な社会で過ごしていますが、これを日が落ち切った後の夜の場合に置きかえてみたいと思います。

もしも、何度も常に保護者との門限を守らなかつたら。

もしも、唐突に知らない誰かに車両へ連れ込まれたら。

もしも、突然に見知らぬ誰かから殴られたら。

もしも、急に誰かからうでをつかまれたら。

もしも、もしも、もしも、

沢山の『もしも』は安全と、となり合わせに息を潜めています。

そして、常に門限を守らない子供の場合、保護者は『また、いつもの事で帰ってこないんだ。』と納得してしまいます。

もし、万が一僕が門限を守らずに犯罪へ巻き込まれたら…沢山の大人達が僕のために行動を起こし、沢山の人が僕を探し続ける様になってしまいます。

たった一つの約束

保護者は、僕の体の安全のために。僕は保護者の心のために。

犯罪に巻き込まれない、危険から身を遠ざけるために、僕は門限を守る事が日々を安全に過ごすための約束のうちのひとつだと考えています。

変わりない平和な毎日、笑顔でいられる毎日。これらを手放さないためにも僕は保護者との門限を守り続けていきたいと堅く心に決めています。

やさしい世界

早園小学校 四年 榎野 千彩子

世界には、色々な人がいます。

例えば、足の速い子、勉強がとくいな子、みんなそれぞれちがう個性をもっています。

その中で、犯罪や非行がおこってしまうのは、仕方がないことだと思いません。

犯罪や非行は、よくないことだと思いません。でも、つい物心でやってしまったのかもしれないし、日常生活に何かふまををいだいていたのかもしれない。

それに私は思うんです。犯罪や非行をおこしてしまった人が、必ず悪いわけではなく、犯罪をおこされた被害者が悪いというわけでもなく、どちらも悪くないと私は思うのです。人間、ふまををいだかず、ただ人の言うことにしたがっている人間など私はいないと思います。どれだけいい人でも意地悪したくなるし、意地悪をしたいという感情はあってもいいと思います。

だから、私は犯罪や非行をしてしまった人が必ず悪いというわけではないと思うのです。

それに反省していればいいと思います。だからといって心がこもっていない反省は良くないと思います。それで罪をつぐなったとしても心がザワザワしてしまいとても良い気持ち

にはなれませんが。

私が悪いことをしてしまったときは、自分がしてしまったことをきちんとみとめ、ノートに書きます。

それでもモヤモヤがおちつかなかった場合は安心できる人に相談します。もし話せる人がいなかったら、さまざまな相談まどぐちが全国にあるのでいつでも相談できます。

私の学校では、朝に見守りが行われています。見守りの人は、毎回おはようと行ってくれます。それに対して私達もおはようございますと言います。その中でいい声だねと言ってもらうと、とてもうれしいし、見守りの人がいて心が安心します。

このように、安心する社会を作るには、みんながみんなにやさしくし、さらに自分にもやさしくすることだと思います。みんながやさしくしていると自分もみんなも心がポカポカします。友達が私にやさしくしてくれた時、とてもうれしかったです。ポカポカしました。でも自分にやさしくしないと人には、やさしくできません。

先生が、言っていたんです。

「まず自分にやさしくしないと、人にはやさしくできない。だから、まず自分にやさしくしなさい。」

犯罪や非行を少しでもなくすために小さなやさしさをつみ重ねていくことが大事だと私は思います。

これから、私は少しでも人にやさしくしたり、相談に乗ったりしたいと思いました。

綾瀬市社会を明るくする運動実施委員会委員長賞

中学校の部

自分で火を照らす

春日台中学校 三年 詫間 ももか

私たちの毎日は、家族や友達、地域の人たちとつながってできている。その中で私はやったことは必ず返ってくるという言葉を信じている。それは明るい未来をつくる力になると思うからだ。

家庭では、親や兄弟と意見が合わずにぶつかれることもある。そんなとき、つい怒ったり言いたいことを我慢したりしてしまう。でも家族の中で小さなやさしさを積み重ねたりしていればたとえ気まずくてもまた理解し合う道が開けると感じている。たとえば「ありがとう」や「ごめんね」の一言は小さな火をともしつきつかけになる。家の中で安心できる場所があれば、子どもも大人も心に余裕ができる。そういう環境が、非行や犯罪から遠ざかる第一歩だと思う。

学校生活でも、友達との関わりはとても大切だ。いじめや孤立は、心の火を消してしまうものだと感じる。私も友達とけんかをしたり、話しづらい時期があったけど、その時に小さな勇気で話しかけてくれた友達のおかげで救われた経験が

ある。だからこそ、困っている人に目を向けて声をかけることは犯罪や非行を防ぐ意味でも重要だと思う。誰かが立ち直るきっかけも、そうした小さな心の火が再び灯る瞬間から始まるのだろう。

地域社会が犯罪や非行のない明るい場所になるためには、一人ひとりが自分の心に火を灯し続けることが必要だ。助け合いの精神を持ち、誰かが困っていたら手を差し伸べること。そうした行動が連鎖して、地域全体の雰囲気明るくなり、犯罪を生みにくい環境ができると思う。

また、犯罪や非行を犯した人の立ち直りも、決して簡単なことではない。私たちはその人たちをただ責めるのではなく、支え合う気持ちが必要だと思う。過去の過ちを乗り越えようとする人に対して、社会が優しい火を灯し続けることで、その人もまた自分の火を灯し直すことができる。だから、立ち直りの支援は、犯罪の再発防止にもつながると感じている。

私はこれからも、自分の心に火を絶やさず、小さなやさしさを周りに届けたい。家族や学校、地域で自分で火を照らす人が増えればきつと犯罪や非行のない明るい社会になるはずだ。みんなが安心して暮らせる場所を、自分の力で少しずつ作っていききたいと思う。

大和・綾瀬保護司会綾瀬地区会会長賞

小学校の部

ルールは大切

綾北小学校 三年 今井 葵央羽

わたしの学校生活の中で、体けんした事を書きたいと思います。

ブランクをかしてくれない友だちがいました。30秒ぐらになつたらかすルールなのに、かさなかつたです。みんな「かして。」と言っているのに、話を聞かないで、そのままのっています。30秒たつても気にしないのでのっています、そのあとずつとのっています、かしてくれませんでした。みんなすぐのりたいたいのをがまんしているのに、むしして、休み時間のおわりまでのっています、わたしは、休み時間のおわりのチャイムが鳴つたので、教室までもどりました。その日は、ぜんぜんブランクにのれなかつたので、みんながかなしい気持ちになりました。わたしもかなしい気持ちと、いやな気持ちになりました。

なんでかさないんだろうと思いましたが、なんでルールをやるんだろうと思いましたが。なんでむしをして、話を聞いてくれないんだろうと思いましたが。なんで遊ぶものはたくさん

あるのにブランクだけやるんだろうと思いましたが。なんで一人じめにしたんだろうと思いましたが。ならんでいる人がいるのに気づかないで、ならんでいる人は、いやな気持ちとかなしい気持ちになつていっているのに、気づかないのだからと思いましたが。なんで全部の休み時間ブランクに、のっているのに、毎回休み時間さい後までのっているんだろうと思いましたが。なんで自分は、かしてもらっている人にはかさないんだろうと思いましたが。なんでルールをやぶつても平気な顔をして、ずっとブランクにのつていられるんだろうと思いましたが。

一つルールをやぶつても、「なんで」がいっぱいになつて、いやな気持ちにもなるし、はらも立ちます。はらがたつといっぱいけんかをしてしまい、いつかは、せんそうになつちゃうんだと思います。

さい近は、ルールをいっぱいやぶっている人がいるなと思うので、いつかはせんそうになるかとこわいです。

わたしの家にはこんなルールがあります。学校の時は、ちやんと夜9時にねて、朝7時におきることがやくそくです。早くねると、朝おきたら体が元気なので、ルールはまもつたほうがいいと思いましたが。

あと、アニメをテレビでみた時に、人にやったことは、自分にかえつてくると言っていました。ことわざで「なさは人のためならず」と言います。人のために、何かをすることは大切だと思いましたが。

大人になっても、ルールをやぶるとはんざいになったり、せんそうになったりするから、ちゃんとルールをまもることが大切だと思います。

わたしは、はんざいがあつたり、せんそうになったりするのがいやだから、ちゃんとルールをまもって、人のために何かをして、生きようと思いました。ルールをまもることが明るい社会になると思いました。

大和・綾瀬保護司会綾瀬地区会会長賞

中学校の部

「寄り添える人」になる

春日台中学校 二年 佐藤 結衣

私はたまに、なんとなくムシヤクシヤしたり、イライラすることがあります。これらのストレスから、弟に冷たくなったり、態度に出してしまいます。弟は何も悪くないのに。なので最近、人に迷惑をかけないようにと、音楽をきいたりして、心を落ち着かせています。

私は、未成年が犯罪、非行を犯してしまう原因に興味をもち、インターネットで調べてみました。その原因として、心

の中のストレス、心理的なプレッシャー、自己肯定感の低さ、人間関係や家庭環境など、様々な原因があることが分かりました。それらがたまると犯罪をしてしまったり、自分自身を傷つけたりしてしまいます。そうしないようにするには、周りにいる友達、家族や大人などの相談できる、信頼している人たちがいないといけません。ストレスを解消するには、私は音楽をきくことですが、休息、趣味、相談など、人によつてさまざまです。私たちは人間なので、ひとりで生きていくことは難しいです。犯罪を犯してしまう人たちは、このような心のよりどころがなかったのかな、と思います。

最近、家庭内のトラブルや闇バイトなど、どちらも学生が関与しているニュースを見ることがあります。私は、犯罪に関わってしまった人は、完全に悪いとは言いきれないと思っています。私は本人ではないので分かりませんが、理由もなく犯罪を犯す人はいないと思います。家庭環境や学校内でのトラブル、人間関係などのストレスを第三者が与えていた、与えてしまっていた、などの背景があつたのだと思います。何らかのトラブルやいじめがあつたのかもしれないし、相手が無自覚に傷つけてしまつていたのかもしれない。私たちはこの「無自覚に傷つけてしまう」という事に気を付けなければいけません。励ますつもりで言ったり、冗談で言つたつもりが、相手は嫌に感じていたのかもしれないし、自分も、誰かを傷つけてしまつていたのかもしれないし、自分の家族も友達もあつたのかもしれない。無自覚に人を傷つけないよう

にするには、「相手がどう感じるか」を考えることが大切です。また、相手の心に「寄り添える人」になることも重要だと思えます。「寄り添う」とは、困っている人や悩んでいる人の側にいて支えること、と私は促えます。自分のことを理解し、共感して寄り添ってくれる人がいれば、心が軽くなるし、前向きな気持ちになれる。これで世の中の犯罪がゼロになるわけではないけど、一人ひとりの行動が、相手の心を変えるかもしれない。日本が、世界が、みんな笑顔でいられる場所であってほしい。



綾瀬市更生保護女性会会長賞

小学校の部

はんぎいはよくないな

綾南小学校 二年 音琴 湊葵

みんながなにかをするときは、いいことでもわるいことでも、だいたいはりゆうがあると思います。たとえばそうじをするときは、お家をきれいにしたいとか、みんながよろこぶからなどがあると思います。あいさつをするときは、みんながえがおになれるとか、新しいともだちができるチャンスがあるかもしれないなどがあります。ぎやくにわるいことをしてしまうときにはどんなりゆうがあるかを考えてみることにしました。

ぼくがよくしかられることに、へんじのしかたがよくないというのがあります。「はい」といわなきやいけないときに、「へい」とか「あい」とへんじをしてしまうときがあります。ぼくはそんなに考えてへんじをしてないから、てきとうなはんじになってしまっていると思います。このままではよくないので、ちゃんと考えてへんじをしなければいけないと思いました。

ぼくは木曜日のかえりみちに、ともだちとおちているゴミ

をさがすというあそびをしています。つうがくるにはタバコのすいがら、ジュースやおさげのかん、おかしのゴミなどがたくさんおちているのをみます。近くに「ごみばこがないからしかたなくするのかもしれない」と思っていたけれど、これは「ふほうとうき」というはんざいだそうです。はんざいだし、そのまますてているとせかいがごみだらけになってしまうので、すてないでほしいと思いました。また、まちにもつとごみばこがあればいいのと思いました。

ぼくはスピードをすごく出している車をなんか見たとあります。これはこうつういはんというはんざいだそうです。もしかしたらりゆうがあつていそいでいるかもしれないけれど、スピードをだしすぎるとじこがおこるし、ひかれたひとはおおげがしてしまうと思います。すこいそいでいたとしても、こうつうルールはまもらなきゃいけないと思いました。こうつうルールをまもらないとみんながこまってしまふし、いはんをされた人も、いはんをした人もその家ぞくもぜつたいにこまると思います。

はんざいについてしらべてみると、ちゃんとまもらなければいけないルールがあることがわかってきました。ルールをしらべて、べんきようして、やってみることがだいじだと思いました。しらないうちにははんざいをしてしまわないように、パソコンやけいたいをつかっておとうさんとかおかあさんとしらべてみようと思いました。

はんざいがなくなるには、ルールをしらべて、じぶんでも

しっかりと考えて「こういうふうにした方がいいんだな」ときめていくことが大せつだと思いました。

綾瀬市更生保護女性会会長賞

中学校の部

つながる

春日台中学校 三年 築井 愛斗

子どもや若者が安心して過ごせる環境は必要だ。居場所がなければ、つい悪い道に進んでしまうことがある。なので、みんなが安心できる場を作ることが大切だ。居場所作りは、非行や犯罪を防ぐだけでなく、子どもや若者の未来を守る力になる。小さな取り組みでも集まれば社会全体をより良くする力になる。まるで水滴が集まって川となり、やがて大河になるように、個々の努力が大きな変化を生むのだ。

子どもたちが安心して過ごせる時間や活動があることは大切だ。放課後や週末に、仲間と一緒に学んだり遊んだりする機会があれば、孤独や不安は少しずつ減っていく。困ったときに相談できる大人や仲間がいる安心感は、心に安定をもたらし、また、そうした活動で得た小さな達成感や成功体験は、

自信や前向きな気持ちを育てる力になる。

居場所作りは単に時間を過ごす場所ではなく、思いやりや協力の心を育む場でもある。子どもたちは互いに助け合った一緒に何かに取り組んだりする経験を通して、支え合う大切さを学ぶことができる。こうして芽生えた安心や喜びは、地域全体を温かくする力になる。小さなつながりが少しずつ広がることで、社会全体の雰囲気も明るくなる。一本の糸が編まれて大きな布になるように。

さらに居場所作りは地域の安全にもつながる。活動を通じて子どもたちは大人や仲間と自然に交流し、互いに支え合う関係が生まれる。地域の見守りと居場所の組み合わせは子どもたちにとって安心の盾となり、非行や犯罪を遠ざける。街全体が子どもたちの笑顔で満たされるとき、その効果は社会全体に広がる。地域の人々が協力し、声をかけ合うことは、子どもだけでなく、大人にとっても心の支えになる。

居場所作りは子どもたちの成長にも大きく寄与する。困ったときに相談できる相手がいることは心の安定につながり、将来の困難にも立ち向かう力を育む。趣味やスポーツで得た小さな成功体験は、自分を信じる力となり、挑戦する意欲を生む。さらに、仲間や大人とのコミュニケーションを通して学ぶ思いやりや協力の心は、学校や地域、社会全体に広がる価値がある力となる。これは、一人ひとりの小さな行動が社会を形作るということを示している。

非行や犯罪をなくすことは、一人ひとりの小さな行動から

始まる。居場所を作り、支え合い、笑顔を共有することだけで、社会は少しずつ良くなる。小さな取り組みが積み重なれば、大きな変化となる。安心して過ごせる場所を増やすことは、子どもたちの未来を守るだけでなく、街全体を温かくし、社会を明るくする力になる。社会のつながりを築くのは、ほかでもない私たち自身だ。その手が重なり合うことで、希望に満ちた未来が確かに形作られる。だからこそ今この瞬間から、誰もが支え合い、守り合う社会を作り合うことが必要だ。それが、私たちが目指す社会の明るさであり、確かな光となる。

